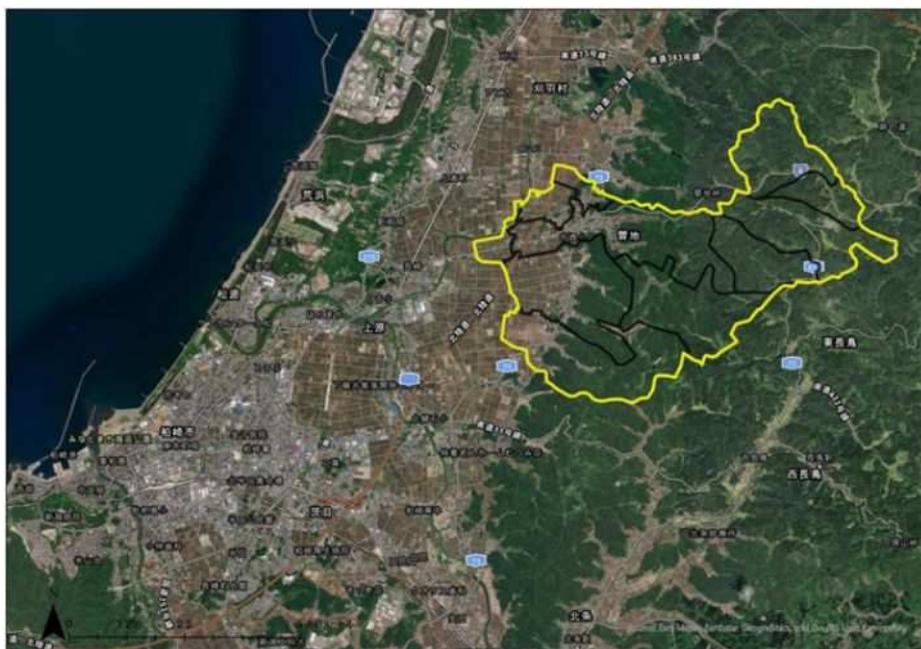


令和4年度 一般財団法人 新潟県建設技術センター研究助成事業

柏崎市中通地区をモデルとした「関係人口の創出・拡大」事業 活動報告書



(google earthを加工)

令和5年3月

代表申請者 新潟工科大学 樋口 秀

1. 事業の概要

1-1 目的

柏崎市内の農村地域（中通地区）を対象に、これからの地域創生の鍵を握るとされる「関係人口の創出・拡大」を目的とした調査研究とフィールドワークの3か年事業である。

※関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない。地域や地域の人々と継続的に多様に関わる者。

1-2 背景

中通地区は、柏崎駅から約10kmに位置し、国道8号や主要地方道が通り、生活基盤の比較的整った農村地域である。一方、人口減少や少子化が進み、地区内で唯一の小学校も児童数が激減し、柏崎市の学区再編方針では令和8年度に近隣の小学校へ統合されることが提示されており、将来が心配される状況にある。

また、全国的な動きとして、近年、若者世代や子育て世代に田園回帰の志向が見られるほか移住促進が思うような成果につながっていないことから、移住より心理的負担の小さい「関係人口」が地域創生の鍵を握ると考えられるようになってきている。

そのような動きを踏まえ、関係人口に着目し、その潜在的条件のそろった中通地区を対象に、全国のモデルとなるような「関係人口の創出・拡大」に取り組むものである。

1-3 事業推進組織

新潟工科大学の建築・都市環境学系教授、樋口秀ほか同大学の教員2名、学生1名、中通地区居住者1名の計5名で構成する組織（チーム）が主体となり事業を推進する。

1-4 実施スケジュール（3カ年の年次計画）

- ◆ 1年目(令和4年度)中通地区の地域資源の調査と体系化、関係人口に関する学習と共有
- ◆ 2年目(令和5年度)関係人口に有効な地域資源の抽出、事業展開の検討・方針決定
- ◆ 3年目(令和6年度)事業展開の実践

1-5 1年目（令和4年度）の活動実績

- ① 中通地区との関係づくり
- ② 地域への入り方・関わり方の学習
- ③ 地区行事への参加
- ④ 地区内の外部人材、農業関係者との面談
- ⑤ 集落単位の土地利用現況調査（9集落中、先行して3集落）、土地利用現況ヒアリング（9集）
- ⑥ 地域資源に関する資料収集・整理「映像で見る中通」
- ⑦ 「中通ゆかりの若者が中通を語る座談会」の開催

2. 令和4年度の活動実績

2-1 中通地区との関係づくり（地区代表者、行政関係者へのあいさつと事業の説明）

- 中通地区行政振興会（会長：篠田秀雄さん）
 - ・ R4.1.8：中通地区を対象とした事業の実施と助成事業に申請することを説明し了解を得る。
 - ・ R4.3.31：電話で助成事業に採択されたことを報告する。
- 中通コミュニティ振興協議会（会長：遠藤春治さん）
 - ・ R4.4.21：中通コミュニティセンターを訪問し、会長とセンター長にあいさつと事業の説明をし、中通地区に関わることの理解と協力をお願いする。
- 柏崎市（元気発信課、市民活動支援課）
 - ・ R4.4.21：柏崎市を訪問し、両課の担当係長にあいさつと事業の説明をし、活動への理解と協力をお願いする。

2-2 地域への入り方・関わり方の学習

(1) にいがたイナカレッジのコーディネーターを講師とした勉強会

- 第1回「共感から生まれる関係人口」
 - ・ 副題：地域に受け入れてもらうために必要なこと
 - ・ 講師：金子知也さん
 - ・ 日時：6月17日（金）16:30～17:30
 - ・ 場所：新潟工科大学 ゼミ室
 - ・ 参加者：11名（チームメンバー、新潟工科大生）



○第2回「心と体の旅をする」

- ・副題：若者が地域に関わることで得られるもの
- ・講師：井上有紀さん
- ・日時：9月30日（金）15:00～17:30
- ・場所：新潟工科大学 会議室
- ・参加者：10名（チームメンバー、新潟工科大、新潟産業大生）



※いいたいなカレッジ：公益社団法人、中越防災安全推進機構（長岡市）の内部組織。2012年から中越地震により過疎化の流れが加速化した農村地域で、都市部の若者を受け入れる農村インターンシップなどに取り組んでいる。

(2) 柏崎市荻ノ島の実践から地域との関わり方を聞く

- ・講師：新潟産業大学 非常勤講師 春日俊雄さん
- ・日時：8月25日（金）15:00～16:30
- ・場所：新潟産業大学 会議室
- ・参加者：3名

2-3 地区行事への参加

チーム唯一の学生の松尾翔馬が、夏祭り「あかりナイト」やコミュニティまつりなど、地域の行事に準備の段階から参加した。夏祭りでは、同じ研究室の学生を誘って5人の学生が参加し、地元も学生の参加を喜んだ。

月	地区行政振興会行事	コミュニティ振興協議会行事	各集落行事等
7	7月24日柏崎ぎおん・民謡流しへの参加（中止）		
8		○8月5日夏祭り「あかりナイト」 （準備含む、学生5名参加）	8月15日曾地集落盆踊り（中止）
9			各集落秋祭り
10	10月2日地区民大運動会（中止）		10月飯塚集落収穫祭（中止）
11		○11月13日コミュニティまつり （準備含む）	○11月6日矢田マルシェ

※表は参加を予定した行事、赤字は実際に参加した行事

		
夏祭り「あかりナイト」1	夏祭り「あかりナイト」2	矢田マルシェ
		
コミュニティまつり1	コミュニティまつり2	コミュニティまつりでの活動報告

2-4 地区内の外部人材、農業関係者との面談

これもチーム唯一の学生の松尾翔馬が、地区で働く人（地域おこし協力隊の隊員や農業関係者など）を訪問・面談し、仕事の内容や仕事の展望、地域のことなどを聞かせてもらった。

月	面談相手	備考
6	地域おこし協力隊（矢田）野々垣翔太さん	営農
	地域おこし協力隊（矢田）山田華緒李さん	地元商店の再生、交流拠点づくり
7	(株)大日 代表取締役 石黒芳和さん	R4.1農業組合法人を株式会社へ
	三宮農機商会 代表社員 三宮泰之さん	
	農事組合法人 吉井生産組合 代表者 佐藤誠さん	H27.10設立
	農事組合法人 曾地生産組合 代表者 笹川宏さんほか	R3.2設立
8	大規模農家（個人）吉田さん	家族経営



2-5 集落単位の土地利用現況調査、土地利用現況ヒアリング

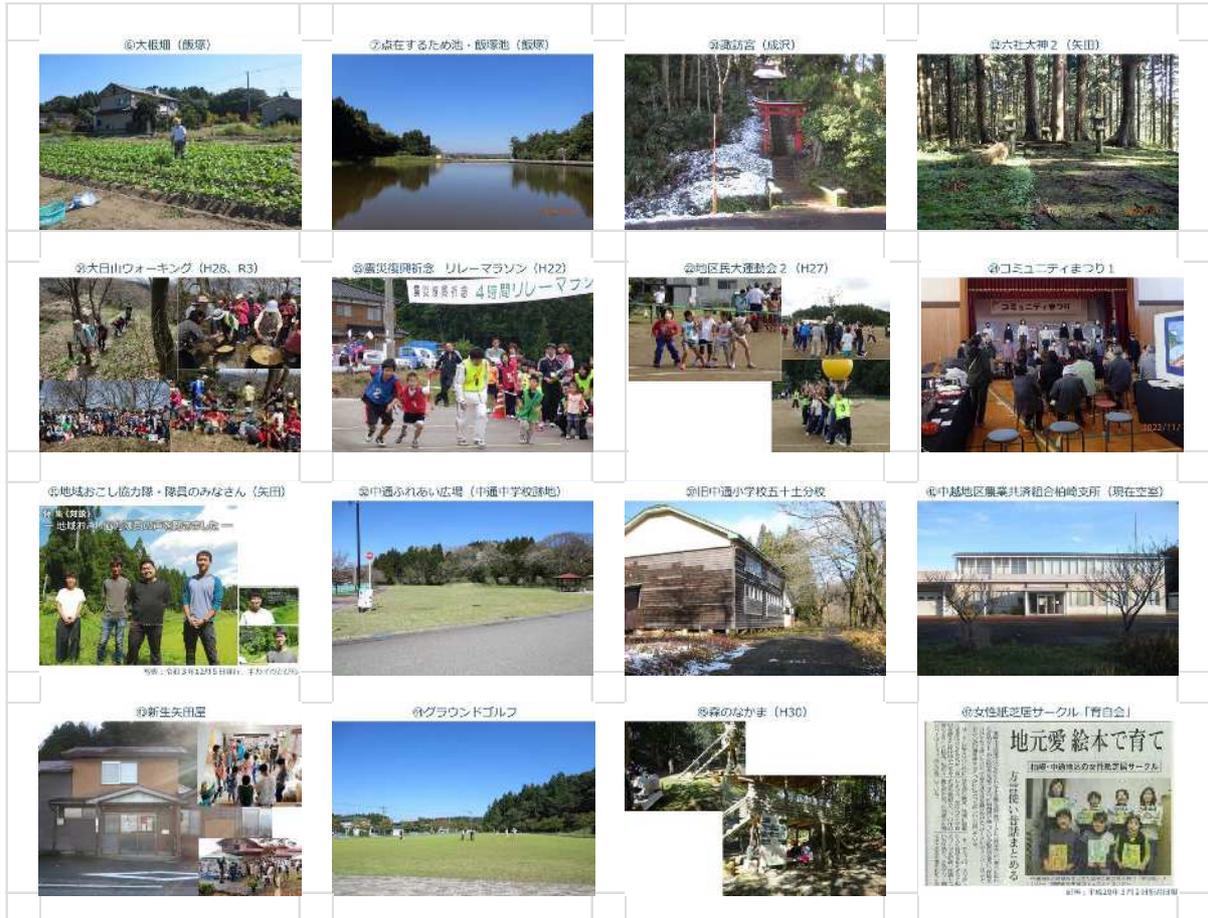
中通地区内の土地利用（農地、住宅地、空き家、耕作放棄地、管理放棄地など）の実態を把握するため、先行して3つの集落（飯塚、矢田、五十土）を対象に、徒歩にて土地利用現況調査を実施した。また併せて、12月に全集落（9集落）の総代（町内会長）に、土地利用に関するヒアリングを実施した。（下図は飯塚集落の調査結果のまとめ）



（原図はゼンリン住宅地図）

2-6 地域資源に関する資料「映像で見る中通」の作成

中通地区の地域資源に関して、今年度チームメンバーが撮影した写真と中通コミュニティセンターから提供のあった写真を中心に、「映像で見る中通」を作成した。スライドは全部で48枚、5分類に区分（「地形、景観」「地区行事」「人」「公的施設、生活施設等」「活動」）して編集している。（下記スライドはその抜粋：関係人口の取組に有力な候補となりそうな資源を抽出）



2-7 「中通ゆかりの若者が中通を語る座談会」の開催

中通地区の魅力を再確認し、関係人口の創出・拡大に有効な取り組みを探るため、座談会を計画し、令和5年1月7日（土）に実施した。



(1) 座談会の概要

○主催者等

- ・主催：本事業チーム（代表 新潟工科大学 教授 樋口秀）
- ・後援：中通地区行政振興会
- ・運営協力：にいがたイナカレッジ、NPO 法人 aisa

○開催日

- ・令和5年1月7日（土）13時30分～16時30分

○場所

- ・中通コミュニティセンター 2階 和室

○座談会の内容

- ・中通ゆかりの若者による、中通の魅力や思い出などの発表と語り合い

○中通ゆかりの若者（発表者）

氏名	中通地区との関係等
吉田 涼香	R1 田舎暮らしインターン（矢田）
野々垣 翔太	R1～R4 柏崎地域おこし協力隊（矢田・農業）
新田 瑞希	地元中通小卒（社会人・県外）
室賀 幸太郎	地元中通小卒（社会人・県外）
渡辺 七海	地元中通小卒（大学4年・県外）
松尾 翔馬	チームメンバー（新潟工科大学4年）

※敬称略、6名全員が20歳代

○タイムスケジュール

【前半の部】 13：30～15：00 個別発表

- ・映像で見る中通・・・主催者
- ・中通ゆかりの若者6名による発表「中通を離れて、今中通について思うこと」ほか

【後半の部】 15：10～16：30 語り合い

- ・テーマ：暮らす場所、働く場所、地区外の人からも関心を持ってもらえる場所としての中通
- ・語り合い参加者：中通ゆかりの若者6名
- ・進行：にいがたイナカレッジ 井上有紀

○発表者・主催者以外の参集者（約10名）

- ・中通地区行政振興会、中通コミュニティ振興協議会の役員、関係者の皆さんなど 約10名

○報道

- ・当日は、新潟日報、柏崎日報の取材あり（取材記事は別途添付）

(2) 当日の様子

	
前半の部 個別発表	後半の部 語り合い1
	
後半の部 語り合い2	閉会後の集合写真 (参加者全員)

3. 今後の事業展開について

○事業・活動の進め方について

- ・少しずつ中通地区との関係性を深めながら、中通地区の住民の方々との信頼関係を築く。
- ・地区内外の若者から活動に関心を持ってもらえるように活動内容を工夫する。

○関係人口に有効な地域資源の抽出について

- ・本事業でアプローチを検討している地域資源の候補は、「自然や景観」、「地区行事」、「農業と食」、「ふれあい広場などの公的施設」、「優良な空き施設・空き家・遊休地・管理放棄地など各種不動産」、「人、サークル活動」など
- ・上記地域資源を複合的に組み合わせることで、その有効性、可能性を高めることを視野に置いて事業を展開する。

(以上)